

団体準優勝

男子エペ

全日本学生フェンシング王座決定戦Ⅱ6月22日、京都府・大

出た。しかし、決勝戦では慶大に42-45で惜敗。あと一歩及ばず準優勝で大会を終えた。

山崎町体育館

運びが少しできた」と今後につなげるプレーがあったことを話した。

下村は「良い緊張感を持って試合に臨めた。決勝は結果としては負けてしまったが、次につながる試合になったと思う」とチーム力の向上に手応えを感じていた。自身に

ついては「負けている場面でも、積極的にポイントを取ることができた。関東学生選手権大会とインカレまで期間があるの

で、個人としてはメダル獲得、団体では優勝を目標に練習に取り組んでいきたい」と語った。

(藤林利英・文2)

関東・関西の学生リーグ戦の上位各2校が大学日本一の座を争う今大会。関東1位の男子エペチームが出場し、初戦の関西大に対して45-33で勝利を収め、決勝戦に進

出た。しかし、決勝戦では慶大に42-45で惜敗。あと一歩及ばず準優勝で大会を終えた。

山崎町体育館

出た。しかし、決勝戦では慶大に42-45で惜敗。あと一歩及ばず準優勝で大会を終えた。

山崎町体育館

出た。しかし、決勝戦では慶大に42-45で惜敗。あと一歩及ばず準優勝で大会を終えた。

山崎町体育館

出た。しかし、決勝戦では慶大に42-45で惜敗。あと一歩及ばず準優勝で大会を終えた。

山崎町体育館

F 61kg級 向田 F 79kg級 高原

健闘 準V



拮抗したF79kg級決勝。右が高原 撮影＝知地泰雅(文3)

勝で敗れたガレダギ敬一選手(早大)と再戦。序盤から拮抗した状況が続き、2-2の同点で試合を終えたが、より高得点の技を決めた相手選手にビッグポイントが認められ、判定で敗戦となった。

高原は「自分のバランスを最後まで保てる場面もあった」と手応えを実感するとともに、「これまでの大会では、2位が1番多い。優勝してここから脱却したい」と頂点への思いを語った。

グレコローマン60kg級では徳原誠馬(文3・高知東高)が3位入賞した。(米山初佳・文2)

勝で敗れたガレダギ敬一選手(早大)と再戦。序盤から拮抗した状況が続き、2-2の同点で試合を終えたが、より高得点の技を決めた相手選手にビッグポイントが認められ、判定で敗戦となった。

高原は「自分のバランスを最後まで保てる場面もあった」と手応えを実感するとともに、「これまでの大会では、2位が1番多い。優勝してここから脱却したい」と頂点への思いを語った。

グレコローマン60kg級では徳原誠馬(文3・高知東高)が3位入賞した。(米山初佳・文2)



準優勝の男子エペチーム。左から泉、峯田、熊谷、下村 撮影＝門前咲良(文3)

専大からは5選手が出場。フリースタイル61kg級の向田旭登(経営4・花咲徳栄高)、79kg級の高原崇陽(経済4・高山西高)が決勝に進出し、準優勝に輝いた。

向田は決勝で長谷川敏

裕選手(三恵海運)と対戦した。序盤に2点をリードするも、脚を取られて連続で6失点。相手を崩し切る事ができず、テクニカルスベリオリテ

ィー負けとなった。向田は「脚を取られて一気に点数を奪われ、気持ち的にきつかった」と悔しさをにじませる。「12月の天皇杯では借りを返したい」と意気込んだ。

準優勝の男子エペチーム。左から泉、峯田、熊谷、下村 撮影＝門前咲良(文3)

裕選手(三恵海運)と対戦した。序盤に2点をリードするも、脚を取られて連続で6失点。相手を崩し切る事ができず、テクニカルスベリオリテ

ィー負けとなった。向田は「脚を取られて一気に点数を奪われ、気持ち的にきつかった」と悔しさをにじませる。「12月の天皇杯では借りを返したい」と意気込んだ。

準優勝の男子エペチーム。左から泉、峯田、熊谷、下村 撮影＝門前咲良(文3)

専大スポーツ

【専大スポーツ】<https://www.senshu-u.ac.jp/sports/>

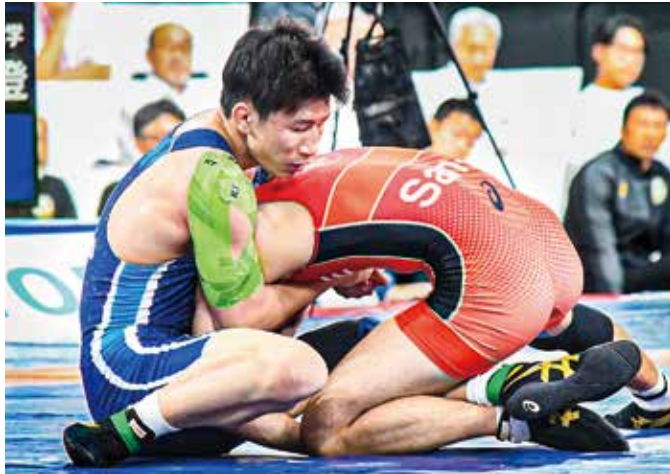
No. 464

専大スポーツ 編集部 公式 WEB

掲載記事を含む全文はコチラ↑

X @sensuponow

Instagram sensuponow



決勝で果敢に攻める向田 撮影＝知地

1次リーグを5勝2敗の3位で終えた専大は、上位4校によるトーナメント戦に進出。筑波大に12-6で勝利し、優勝決定戦に進んだ。最強・日体大との試合は、第4クォーターに猛追するも12-19で敗れ、2位とな

った。

主将の大江陸(経営4・秀明英光高)は「チーム結果。負けたことは悔しなかった」と前向きにコメントした。

今日の結果、日本学生選手権(インカレ)の出場権を獲得した。大江は、「インカレ優勝が目標。優勝決定戦での7点差をひっくり返せるような力をつけられるように頑張りたい」と決意を述べた。(藤林)

右から坂井、松本理事長、原田、佐々木学長、笠原 撮影＝藤林

リーグ2位

インカレでのリベンジ誓う

関東学生水球リーグ戦Ⅱ5月10日～6月22日、江東区・東京アクアティクスセンターほか

リーグ戦を戦い抜いた水球チーム



た。

結果。負けたことは悔し

なかつた」と前向きにコメントした。

3人に川島記念特別功労賞

国際大会で活躍した選手に贈られる川島記念特別功労賞の授与式が6月10日、神田キャンパスで行われた。2024年度受賞者のスキー部・坂井冠太(経済4・十日町高)、ボクシング部・原田周大(法4・豊国学園高)、25年度受賞者のスピードスケート部・笠原光太郎(経営4・帯広三条高)

の3人に、松本健一理事長から賞状が、佐々木重人学長からメダルが授与された。

2度目の受賞となった笠原は「森重航選手(スピードスケート部OBで北京五輪銅メダリスト)に続いて、メダルを専大に持ち帰れるように努力していく」と来年のミラノ・コルティナ五輪出場を見据えた。

(峯岸茉莉亜・法2)



華麗に障害を飛び越える武南・ジュネーブ号コンビ

関東学生馬術競技大会(関東学生三大障害馬術競技で、武南友会)Ⅱ6月18～22日、世田谷区・JR高(経済2・岡山朝日高)・ジュネーブ号コンビが優勝を果たした。

障害馬術はスピードと正確さ、馬との信頼関係が試される。武南は「暑

い中で、ジュネーブがミス無しでクリアしてくれた。日ごろのトレーニングが実った結果だ」と愛馬に感謝を述べた。今後に向けて「部として、全日本学生で勝負できるようにしたい。個人でもジュネーブとともにコンビの精度を高めていきたい」と意気込んだ。

専大は3種目総合団体では3位。武南は「それぞれ役割を果たした。馬術という競技は一人ではできないので、コーチと部員が支えてくれたおかげ」と全員でつかみ取った3位となった。

(知地)

武南・ジュネーブ号が制す 障害馬術

障害馬術